

聖師さまと二代さまのご結婚。おめでたいお話に、モンちゃんもちょっとうれしくなりました。そしてここで、二代さまのお話はひとまず終わり。次はどなたのお話でしょうか。モンちゃんには分かったかな？



モンちゃん



おじいちゃん



おじい さて、聖師さまと二代さまがご結婚されたところまで話したし、今度はこの方のお話をしようかのお。

モン え？ だれだれ？

おじい 二代教主さまときたら…？

モン う〜ん…、三代教主さま？

おじい そーです！

モン やっぱり、そうだとおもいましたっ！

おじい おや、そうでしたか（笑）。

モン 三代さまは、聖師さまと二代さまの子どもん？

おじい 最初のお子さま

おじい そうじゃの〜。三代さまのご誕生については、いろいろなエピソードがあつての。

モン えっ、なになに？

おじい まず、「女の子が生まれる。それも、変わりものができる」と、開祖さまはおっしゃった。二代さまが妊娠五カ月の時じゃ。

モン え〜！ まだおなかにいるときなのに、分かっちゃったの？ しかも、変わりものって…（苦笑）。



頭（かぶ）のほうへ



三代さまね…もちろんだ、分かってますしね（笑）

おじい さらに、「今度水晶の種を地の高天原に授ける。それは木花咲耶姫命の御霊である」と、開祖さまを通じてご神示があつたのじゃ。

モン ん…？

おじい あ、すまんすまん。ちよつと難しかったかの〜（笑）。要するに、この世界を救う大切な子を授けた…ということじゃ。

モン なんか、すごい。物語に出てくるお話みたいっ！

おじい 水晶の種とは、平和な世界であるみろくの世を実現させるための重要なご存在ということじゃ。

モン そして三代さまの魂は木花咲耶姫命っていう神さまってこと？ お姫さまみたい！



おじい まあ、そういうことじゃ。

それと聖師さまは、三代さまがお生まれになる前年、不思議な夢を見ておられる。際限もなく広い原野に立っていると、東の方から、太陽とも月とも分らない大きなものが聖師さまに近づき、それが二代さまの体内に入っていたのじゃ。

モン うんうん、それで？

おじい 聖師さまは目覚めると、うれしさのあまり「よい子が生まれるぞ」と、二代さまを起こされたそうじゃよ。

モン その大きな光が三代さまだって、聖師さまには分かったんだ。すごい！ほんと、不思議だね〜。

おじい そしてこの夢で見た広大な朝の野の風景と、在朝在野：簡単に言うくと、全ての人という意味なんじゃが、その人たちを救う子になるであろうという二つの思いから、「朝野」と命名されたんじゃ。

モン へえ、夢で見た景色から名前を付けるなんて、すてきななあ。

おじい そしてその後、お筆先に示された「なおひ」というお名前に聖師

さまが漢字を当てられて、「直日」となられたんじゃ。

モン お筆先に…ってことは、神さまから名前をもらえたの？ すごいね！

おじい それほど、重要な使命を持ってお生まれになったのじゃ。

では、三代さまはどんなお子さまだったのか、話すとしてどうかのお。



教主さまたちについて分からないこと、疑問に思ったことは、どんどんお手紙で送ってね。待つてまーす！！

〒621-8686 亀岡市天恩郷
「みろくのよ」編集室
「もつとしりたい おおもと」係

三代教主さまご誕生にまつわる不思議なエピソードは、モンちゃんの好奇心を大いにくすぐるものでした。今回は、父となられた聖師さまや、ご幼少期の三代さまの様子について、お話ししますよ。



モンちゃん



おじいちゃん



おじい 三代さまがお生まれになって、聖師さまは、それはそれはかわいがられたそうじゃ。授乳のときも、「乳飲め、乳飲めよ」と声を掛け、おむつ換えも「わしがするんじゃ」と、進んで換えられたとのことじゃ。

モン 優しいお父さんだったんだね。モンのお父さんも優しいよ♪時々、怖いけどね…。

おじい ははは、そうかそうか。じゃが、そのかわいながら方は、なかなかまねできないものかもしれんぞ。三代さまが片言混じりで話せるようにな

はつこいこした



ると、うどんをほしがれば夜でもすくなくに町まで走ってうどん屋さんをたたき起こし、買ってこられたそうじゃ。それに、三代さまのために八番まである子守歌も作られたようじゃよ。

モン それはすごいね(笑)。三代さまのことが、かわいくてかわいくて仕方なかったんだね。確かに、普通のお父さんにできないかも…。

おじい わしもとうてい無理じゃ(笑)。

さて、ご幼少期の三代さまは、大変に無口なお子さまだったそうじゃ。

モン へえ、二代さまみたいに、やんちゃではなかったんだね。

おじい そのようじゃな(笑)。二代さまの目にも、「物言わずでいつもふくれ

た子」に見えておられたらしいのお。村の話題にも上るほどだったと書かれておる。

モン ええ、村のうわさにまで…。すごいなあ。とてもおとなしい方だったんだね。

おじい まだお小さいころはな。ところが、小学校を出られるころには、ご様子は一変されるんじゃ。

モン どういうこと?

おじい 小学校卒業後、地元の女学校に入学されたんじゃが、学校の先生に、「髪は二つに分けるように」と言われた。すると三代さまは、大きく一束結ばれ、もう一つは三十本だけを結んで「これで二つに見えるか」と泣いておられたそうじゃ。それほど、女らしい格好

がお嫌いだったんじゃ。

モン そうなのっ!?

おじい そんな三代さまに、二代さまが半ば諦めて、「黒い三尺帯でも締めたらよからう」と冗談のつもりでおっしゃると、大喜びで男性物の黒帯を締められたらしいぞ。

モン 三代さまもやっぱり面白い方なんだね。

おじい まだあるぞ。ある日、三代さまに、裾に模様があるお着物が届けられた。それを着て写真さえ撮ってくれたら、あとはどんな格好をしてもよいと二代さまに言われた三代さまは素直に写真屋へ行かれたそうじゃが、後日、出来上がった写真を見て、二代さまは驚かれた。

モン なになに??

おじい 着物の裾を膝の

辺りまでまくし上げ、太緒の大きなげたを履いたご自分の足が見えるようにして写っておられたんじゃ。

モン あはははは。三代さまも、やっぱりやんちゃなんだ!



教主さまたちについて分からないこと、疑問に思ったことは、どんどんお手紙で送ってね。待つてまーす!!

〒621-8686 亀岡市天恩郷
「みろくのよ」編集室
「もつとしりたい おおもと」係

おおもと

ん！もどしりたい

××××★××× (33)

「やっぱり三代さまもやんちゃだったのね…、と、ちょっぴり親しみを覚えるモンちゃん。しかし、おじいちゃんの話聞くうち、三代さまの「やんちゃさ、ではなく、「かっこよさ、に引かれていくのでした。



モンちゃん



おじいちゃん



おじい さて、なかなかのやんちゃぶりを発揮されておる三代さまじゃが、通われていた女学校の空気がなじめず、夏休みが終わると、学校を辞められることになる。

モン え、学校を辞めてもいいの？

おじい この時代は、学校の制度が今とは違うんじゃないよ。

モン なるほど、そうなんだ。

おじい 学校を辞めた後、三代さまはどうされたと思う？

モン うーん、おうちのお手伝いとか？ それと

も、二代さまの子供のころみたい、奉公に出るとか？

おじい ブー、どちらも違います。

なんと、剣術の修行に出られるのです！

モン えー、かっこいいー！

おじい 聖師さまにお願いし、開祖さまの許しも得て、家を離れ名古屋にある道場に入られたんじゃない。

モン 本当に修行に出られたんだね。

おじい しかし、ここでの稽古は、二代さまにとつて少し物足りないものであったようじゃ。結局、それから二十日ほどたつて、家の事情で綾部に帰られるんじゃが、この名古屋の道場に戻られるとはなかった。それでも



やはり剣術修行への思いは強く、そのお気持ちを探してか、大本の役員で、京都から来ていた梅田信之さんという方の紹介で、京都にある大日本武徳会というところに入会されるんじゃない。

モン なんか、すごく強そう感じたね。
おじい ははは、そうじゃなあ。ここへの入会に伴い、梅田さん宅で生活されることになり、いよいよ

よ道場通いが始まった。三代さまは「あこがれの少女の一念、武者修行はかなえられ、沸き返る思いで北野の武徳殿に通いはじめました」と、その思いを記されておる。

モン そっかあ、願いがかなって、うれしかっただろうね。
おじい だから、稽古にも一生懸命に取り組まれた。道場には三十人ほどの生徒がおったそうじゃ

が、女子は三代さまお一人。強い先生たちとの稽古の後は非常に疲れたが、どんなに体がつかっても、片道四キロの道を、暑い日も、雨の日も路面電車をかわらず、必ず歩いて帰られたそうじゃ。

モン 三代さまって、心がとても強い人だったんだね。
おじい モンちゃん、素晴らしいことを言うの。確かにそうじゃ。しかし、

心だけじゃなく、「剣道は後に至って非常に力強くなり、同年輩の男児を凌ぐ程であった」と、先生の一人が記録しておるよ。うに、稽古を重ねるうち、剣術の腕前も確実に上がったといかれたようじゃな。

モン もう、すごく強いということですね…。



教主さまたちについて分からないこと、疑問に思ったことは、どんどんお手紙で送ってね。待つてまーす!!

〒621-8686 亀岡市天恩郷
「みろくのよ」編集室
「もつとしりたい おおもと」係



おおもと

ん！もどしりたい

××××★××× (30)

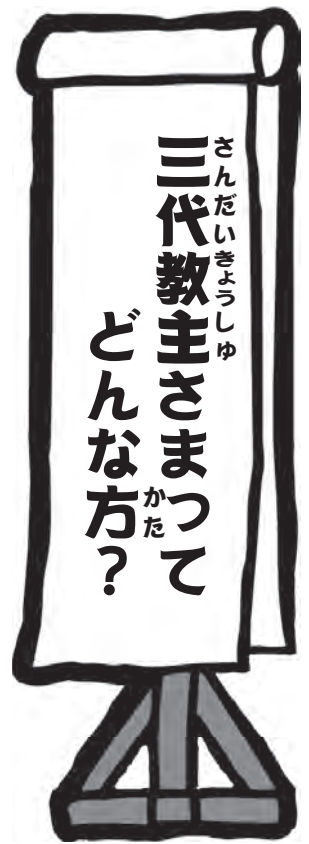
剣術の修行を続けておられた三代さまはその後、3年ほどして綾部に帰られることに。その後は開祖さまのお言葉に従い、さまざまなご用にお仕えされました。お若いうちから重要なご用を務められるお姿に、モンちゃんも感心してしまうのでした。



モンちゃん



おじいちゃん



三代教主さまつて
どんな方?

モン 三代さまは、剣術の修行をずっと続けられたの？

おじい いやいや、ずっとではない。大日本武徳会に入会されたから、およそ三年ほどたった大正七年、十六歳の春に綾部に帰ることを決意されたんじゃ。

モン どうして？

おじい 「どうしても帰ってもらわんと。神さんがいかにいうてや」という、開祖さまのお言葉があったからじゃ。

モン 神さまのご用があるってこと？

おじい その通りじゃ。

実際、綾部に帰られてからは、それまで開祖さまが務めておられた重要なご用を、任されたようじゃな。

モン まだ十六歳なのに、すごいなあ。

おじい 三代さまも、「そんなこわいことできませんと、ためらわれることもあったようじゃが、「なんでも神さまのことは、素直にさせていたただくのがいちばんですよ」と、開祖さまは優しく諭されたとのことじゃ。

モン 三代さまは生まれる前から、大切なご用をするって、神さまからいわれてたんだもんね。

おじい そうじゃな。そうして、開祖さまのお言葉に素直に従われながら、さまざまのご用にお仕えされた。普段のご生活で

ごさままご神務に
おはえされたんじや



も、幼いころ同様、開祖
さまとお二人、同じ部屋
で寝起きをされておった
ようじや。

モン 三代さまは、開祖
さまのことが大好きだっ
たんだね。

おじい じゃが、このこ
ろから、開祖さまのご生
活も少しずつ変わってい
かれた。

モン どんなふうじや？
おじい 大正七年の五月

に入ると、それまで頻繁
に書いておられたお筆先
もなくなり、役員がその
理由を尋ねると、「どうい
うわけか、このごろは神
さまがお書かせになりま
せん」と答えられた。そ
して、同じ年の十一月の
初め、その日は大変冷え
込んだため、二代さまは
こたつを入れて、「早くお
やすみなさい」と開祖さ
まにあいさつをされると、
「はい、はい。さあさあ、
これでわたしのご用も済
んだ。お前のいうように
するわ」と言われ、眠ら
れたそうじや。

モン そうなんだ。開祖
さまはずーっと忙しくて
大変だったから、ちょっ
とゆっくりしたかったの
かなあ。

おじい うむ、確かにわ
しらには想像できんほ

ど、厳しく困難なご生涯
じゃったからなあ。

その後、どんなにお疲
れであっても礼拝を欠か
されることのなかった開
祖さまが、「今晚お礼は誰
か代わってもらいます。
神様は、モウおまえはお
礼をせずともよい。明日
からは先生がお礼をする
とおっしゃられる」とい
うお言葉を残された。ち
なみに、先生とは聖師さ
まのことじや。

モン じゃあ、神さまも
開祖さまに、ゆっくりし
ていいよって言われたん
だね。

おじい この世でのご用
は、終わりということな
んじやろう。

モン どういうこと？

おじい 十一月六日、開
祖さまはご昇天になり、
天界に帰られたんじや。

モン そうだったんだ…。
二代さまも三代さまも悲
しまれたらうな。私も、
開祖さまのお話をいろい
ろ聞いてきたから、なん
だか寂しい…。

おじい 肉体的には亡く
なられたが、そのご神霊
は、天界でのご用にお仕
えされておる。今も、世
界を守護しておられるん
じやよ。



教主さまたちについて分からないこと、
疑問に思ったことは、どんどんお手紙で
送ってね。待つてまーす！！

〒621-8686 亀岡市天恩郷
「みろくのよ」編集室
「もつとしりたい おおもと」係

おおもと

ん！もどしりだい

××××★××× (35)

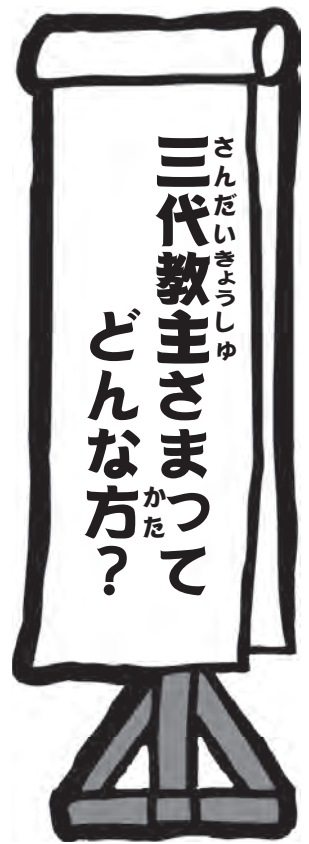
開祖さまご昇天の話に、モンちゃんも大きな寂しさを覚えました。その後の大本は、聖師さま、二代さまを中心に大きな発展の時を迎えます。ですが、ここで一つの大きな事件が…。



モンちゃん



おじいちゃん



モン 開祖さまが亡くなつてからの大本はどうなつたの？

おじい 聖師さまが指揮を執られる中、大本の活動はますます活発になつていった。綾部の神苑の整備も進み、亀岡では、聖地である天恩郷の土地も入手して、参拝者も次第に増えていったんじや。

モン へえ、聖師さまつて、やっぱり行動力がすごいんだね。

おじい しかし、少しその動きが大きすぎたんじゃない。

モン 大きすぎたって？

おじい 分かりやすく言



何かと盛り上がったまのめ、



え、目立ちすぎたんじゃな。そのころの日本は、今みたいに、誰もが自由に物を言えるような時代ではなかった。もし政治批判などすれば、過激な発言として、警察から注意されるような時代だったんじゃ。聖師さまの示される教えは正しくても、それを自分なりに勝手に解釈し、誤解を招くようなことを言ってしまう信徒もおつてな。さらに入信者も急激に増え、その中には、国の偉い人たちの姿もあった。

モン へえ、急に大本の勢いが強くなっちゃったんだね。

おじい その通り。だから警察も、放っておけなくなつたんじゃよ。そして大正十年、第一次大事件というものが起こつ

てしまった。

モン え、事件？ なんか怖いなあ。

おじい 警察による宗教弾圧じゃ。何と説明すればよいかのおう… 大本の活動は良くないことだと決めつけ、聖師さまや役員の人たちを逮捕してしまった。決して、悪いことはしていないのじゃ。

モン ひどいっ！

おじい この事件は、全ての大本信徒にとつて大きな衝撃となつたが、三代さまにとつても、とてもショックな出来事じゃつた。

モン そりゃそうだよ。何も悪いことしてないのに、お父さんが逮捕されちゃうんだもん…。

おじい その後、大切な神殿が完成からわずか

二カ月余りで破壊されるなど、激しい弾圧は続いた。その悲しみ、悔しさを、三代さまは多くの短歌にも残されておる。

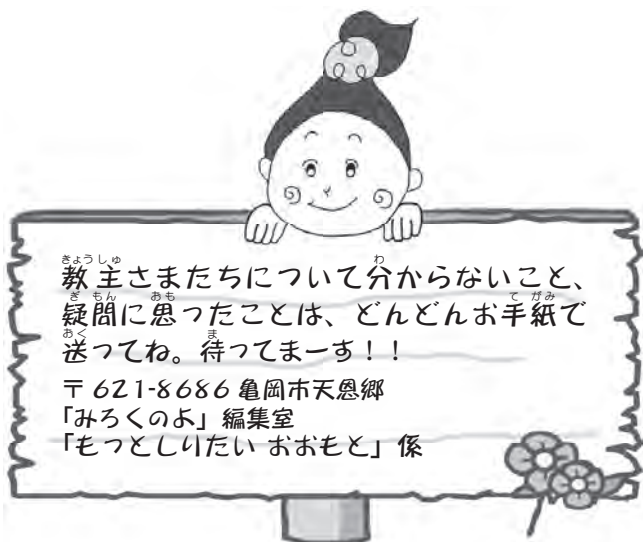
モン 短歌って、聖師さまのお話のときに聞いたな。五、七、五… だっけ？

おじい そうそう、五、七、五、七、七じゃ。聖師さまもお歌を作るのが上手だったように、三代さまもまた、短歌をはじめ、茶道や能楽など、日本の伝統芸術に精進されておるんじゃよ。

モン そうなんだね。

おじい うむ、モンちゃんも事件の話ばかりでは気持ちも落ち込んでしまふじやろ。少し、三代さまのお稽古事について話すとするかの。

モン うん、聞きたい、聞きたい！



おおもと

ん！もどしりたい

××××★××× (36)

大本事件の話は、モンちゃんにとっても大きな衝撃でした。しかしその中で、三代さまがさまざまな日本の伝統芸術に親しまれたことを知りました。今回は、おじいちゃんがさらに詳しく教えてくれます。



モンちゃん



おじいちゃん



おじい 三代さまは、さまざまな日本の伝統芸術に親しまれたんじゃないが、まずは短歌についてじゃ。短歌を作られるきっかけとなったのは、三代さまに武徳殿を紹介した、梅田信之さんの言葉だったそうじゃ。

モン どんな？

おじい 「直日さん、日本に生まれたなら歌ぐらい作らなあきまへんで」これを聞き、シソウや、日本人やもの、歌を作ってみよう」という気持ち湧いてきたと回想されておる。三代さまにとつてこの言葉は、ずっと心

に残るものであったようじゃよ。

モン 三代さまつて、とても素直なんだね。私なら、すぐに作ってみようって思えないかも…。

おじい ははは。モンちゃんも、十分、素直な子じゃと思うぞ。こうして、おじいちゃんのお話も、しっかりと聞いてくれるしのお。

さて、それからというもの、武道の稽古の行き帰りに、「歌を作らないかん」と思いながら歩かれていたそうじゃ。そんなある日、美しく輝く月を見られ、「十四夜の月はさえたり松の根に腰うち掛て昔しのばむ」と詠まれたんじゃ。

モン どういうお歌なの？

おじい 十四夜というの



は、満月に近い日という意味じゃ。

モン そっか。十五夜お月さま♪ っていう歌あるもんね。十五夜の前の日ってことね。

おじい そうじゃそうじゃ。その、さえるような月明かりの下で、松の根に腰掛け、昔に思いを巡らす…といったところじゃろうか。十四歳ごろに作られたお歌じゃ。

モン 十四歳というと、今なら中学生だよな。すごいなあ。

おじい 後に、作歌によって、まず、心をなくさめられ育てられつつ楽しく生きてきたことを、幸福におもっていますと記されておる。少女時代から始められた短歌は、三代さまが生涯において、

大切にされたものの一つじゃ。

モン 短歌だけじゃなくて、いろんな稽古事をされたって、言ってたよね。

おじい 他には、茶道、能楽、書道など、さまざまに伝統芸術に精進され、信徒に対しても、芸術活動に積極的に取り組むよう、奨励されたんじゃよ。

だから今でも、大祭や月次祭などの折には、能楽が奉納されたり、お茶席が設けられたりと、身近に日本の伝統文化に触れることができるんじゃ。

モン そうなんだね。私もお茶席大好き。お菓子は何かなって、いつも楽しみにしてるんだ！

おじい そうじゃな(笑)。そのうち、モンちゃんもお茶のお運びをしたり、短歌を作ったりできるよ

うになるよええのお。モン うんうん、したいしたいっ！



教主さまたちについて分からないこと、疑問に思ったことは、どんどんお手紙で送ってね。待つてまーす！！

〒621-8686 亀岡市天恩郷
「みろくのよ」編集室
「もつとしりたい おおもと」係